

イチゴの収穫が本格的に始まりました！

2024年の夏はとても暑く、作物にとっても人にとっても厳しい環境でした。研究農場のイチゴ栽培でも、夏の暑さの影響を受け昨年比に比べ1ヵ月ほど収穫開始が遅れております。2月頃から収穫が本格的に始まりこれからはもっと忙しくなりそうです。

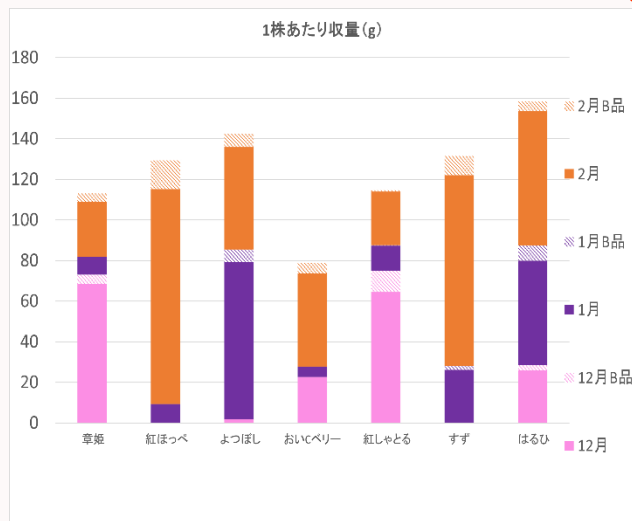
現在の研究農場のイチゴについてお伝えしたいと思います。

2月までの収穫量結果

章姫や**紅しゃとる**は12月から取れ始めたが、第2果房が遅く1月の収穫量が少なくなった。

よつぼしと**はるひ**は1月から収穫量が増え始め、第2果房が連続して出たため、2月収穫量を維持している。

紅ほっぺと**すず**は2月から本格的に収穫が始まり、果実が50gと大きく収穫量が他品種に追いついた。



2月までの1株当たりの収穫量

イチゴ栽培の振り返り

①乾燥によりがく枯れやチップバーンが発生

暖房機を稼働し始めた時期に乾燥させてしまった。3月に収穫できそうなイチゴのガクが茶色く変色（がく枯れ）。収穫物がB品になりもったいなく感じる。

→**給液回数を増やし、排液率を約40%に保つ。**

②葉が黄化し欠乏症状が発生

研究農場では**すず**の黄化がかなり目立った。原因としては給液pHが高いことで鉄が吸収できなかった。

→**pH調整剤で適正値にし、鉄力あくおF14を葉面散布し鉄を補う。**



がく枯れ



葉の黄化

イチゴの栽培試験は5月頃まで続きます。試験栽培が終了するまで収穫量も調査していきますので、結果をお伝えしたいと思います。また、栽培過程で気づいたことや感じたことも発信していきますので、よろしくお願ひします。

各栽培ハウスの見学なども受け付けています！お気軽にお問ひ合わせください。